



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月28日

上場会社名 虹技株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5603 URL <https://www.kogi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 幹雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務担当 (氏名) 谷岡 宗 TEL 079-236-3221
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	16,682	—	43	—	△24	—	△25	—
2021年3月期第3四半期	12,938	△19.3	166	△55.6	236	△2.5	71	△67.4

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 322百万円 (—%) 2021年3月期第3四半期 413百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	△7.79	—
2021年3月期第3四半期	21.49	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	30,048	13,507	36.2	3,283.72
2021年3月期	27,810	13,254	38.8	3,257.60

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 10,883百万円 2021年3月期 10,796百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,100	27.8	140	△50.8	30	△92.2	0	△100.0	0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	3,362,163株	2021年3月期	3,362,163株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	47,913株	2021年3月期	47,839株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	3,314,309株	2021年3月期3Q	3,314,347株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これにより、当第3四半期連結累計期間と比較対象となる前年同期の収益認識基準が異なるため、経営成績に関する説明においては、前年同期比増減を記載しておりません。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内の新型コロナウイルス感染拡大が落ち着き、経済活動が回復基調に向かうかと思われましたが、新たな変異株の出現により、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このようなもとで当社グループは、2019年度を初年度とする第6次3カ年計画に基づいて、既存事業の収益構造の改革や新たな分野の開拓、製品の開発、財務体質の更なる強化といった取組みを全社一丸となって進めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高 166億8千2百万円(前年同期 129億3千8百万円)となりましたが、国内および中国子会社で原材料価格高騰分の価格転嫁に苦戦したことやコロナ禍での地方自治体の予算縮小に伴い鉄蓋等の売上が伸び悩んだことなどにより、損益面では、営業利益 4千3百万円(前年同期 営業利益1億6千6百万円)、経常損失 2千4百万円(前年同期 経常利益2億3千6百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失 2千5百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益7千1百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間の期首から、従来の鋳物事業に加えて、環境関連事業をもう一つの柱とすることを目的とした2021年4月1日付の組織変更に伴い、報告セグメントを従来の「鋳物関連事業」、「環境関連事業」の2区分から、「Casting Field」、「Environment Field・環境エンジニアリング」、「Environment Field・機能材料」の3区分に変更しております。

また、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織変更後のセグメント区分で記載しております。

① Casting Field

鋳物は、鍛鋼用鋳型や特殊鋼用鋳型の需要が伸び、売上高は、前年同期を上回りました。ロールは、輸出入案件がコロナ禍の影響で伸び悩み、売上高は、前年同期を下回りました。自動車用プレス金型鋳物は、国内カーメーカの新開発案件の受注により、売上高は、前年同期を上回りました。大型産業機械用鋳物は、工作機械および鍛圧機械向けが好調で、売上高は、前年同期を上回りました。小型鋳物は、機械鋳物が好調でしたが、電線共同溝用鉄蓋が前年同期を下回り、売上高は、前年同期並みで推移しました。デンスパーは、主要顧客先の需要が好調で、売上高は、前年同期を上回りました。海外事業の天津虹岡鋳鋼有限公司、南通虹岡鋳鋼有限公司は、現地自動車産業が好調に推移し、売上高は、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、140億1千8百万円(前年同期 111億6千2百万円)、セグメント利益は、原材料高騰の影響が大きく、2千5百万円(前年同期 セグメント利益2億7千7百万円)となりました。

② Environment Field・環境エンジニアリング

環境装置事業は、大型案件の工事が進捗したことにより、売上高は、前年同期を上回りました。送風機は、売上高は、前年同期を下回りましたが、環境・省エネ商品のトランスベクターは、半導体関連向けの需要が好調で、売上高は、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、19億2千9百万円(前年同期 12億1千6百万円)、セグメント利益 5千万円(前年同期 セグメント利益1億1千9百万円)となりました。

③ Environment Field・機能材料

KCカーボンセラミックスは、銅・アルミ関連が好調に推移し、売上高は、前年同期を上回りました。KCメタルファイバーは、自動車向け需要が好調で、売上高は、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、7億1千5百万円(前年同期 5億4千1百万円)、セグメント利益 2千1百万円(前年同期 セグメント損失1千9百万円)となりました。

④ その他の事業

当事業の売上高は、1千8百万円(前年同期 1千8百万円)、セグメント損失 0百万円(前年同期 セグメント利益3百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、178億7千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ23億3千7百万円増加いたしました。これは、主として受取手形、売掛金及び契約資産が19億8千4百万円増加したことなどによります。

固定資産は、121億6千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ9千9百万円減少いたしました。

この結果、総資産は、300億4千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億3千7百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、133億9千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億3千3百万円増加いたしました。これは、主として短期借入金が14億9百万円、支払手形及び買掛金が12億4百万円増加したことなどによります。

固定負債は、31億4千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億4千8百万円減少いたしました。これは、主として長期借入金が3億2千1百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、165億4千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億8千5百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、135億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億5千2百万円増加いたしました。

この結果、総資産が増加したことにより、自己資本比率は、前連結会計年度末の38.8%から36.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期通期の業績予想につきましては、本日発表の「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」のとおり、グループ全社をあげてコスト削減に取り組みましたが、国内および中国子会社で原材料価格高騰分の価格転嫁に苦戦したことやコロナ禍での地方自治体の予算縮小に伴い鉄蓋等の売上が伸び悩んだことなどにより、利益が当初の予想を下回る見通しであるため、前回発表予想を修正しております。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,601	2,194
受取手形及び売掛金	7,814	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	9,798
電子記録債権	1,596	2,244
商品及び製品	1,220	1,198
仕掛品	1,070	1,274
原材料及び貯蔵品	773	1,023
その他	493	178
貸倒引当金	△27	△33
流動資産合計	15,542	17,879
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,907	2,959
機械装置及び運搬具(純額)	4,158	3,951
土地	1,220	1,220
その他(純額)	1,547	1,678
有形固定資産合計	9,834	9,810
無形固定資産	229	247
投資その他の資産		
投資有価証券	2,119	2,041
繰延税金資産	1	0
その他	84	70
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	2,204	2,111
固定資産合計	12,268	12,169
資産合計	27,810	30,048

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,716	3,921
短期借入金	4,979	6,389
未払法人税等	29	19
賞与引当金	252	120
その他	3,181	2,943
流動負債合計	11,159	13,393
固定負債		
長期借入金	2,372	2,050
繰延税金負債	312	311
退職給付に係る負債	353	453
その他	357	332
固定負債合計	3,395	3,147
負債合計	14,555	16,541
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,002	2,002
資本剰余金	602	602
利益剰余金	7,333	7,239
自己株式	△55	△55
株主資本合計	9,882	9,788
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	776	720
繰延ヘッジ損益	△4	△2
為替換算調整勘定	113	343
退職給付に係る調整累計額	29	33
その他の包括利益累計額合計	913	1,094
非支配株主持分	2,458	2,623
純資産合計	13,254	13,507
負債純資産合計	27,810	30,048

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	12,938	16,682
売上原価	11,016	14,661
売上総利益	1,922	2,021
販売費及び一般管理費	1,756	1,977
営業利益	166	43
営業外収益		
受取利息及び配当金	40	48
その他	199	55
営業外収益合計	240	104
営業外費用		
支払利息	88	94
その他	82	78
営業外費用合計	171	173
経常利益又は経常損失(△)	236	△24
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	236	△24
法人税、住民税及び事業税	32	33
法人税等調整額	56	20
法人税等合計	89	54
四半期純利益又は四半期純損失(△)	146	△78
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	75	△52
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失(△)	71	△25

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	146	△78
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	267	△55
繰延ヘッジ損益	2	1
為替換算調整勘定	△41	450
退職給付に係る調整額	38	4
その他の包括利益合計	266	401
四半期包括利益	413	322
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	358	154
非支配株主に係る四半期包括利益	55	167

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

これにより、従来は販売費として計上していた一部の費用及び営業外費用に計上していた売上割引について、第1四半期連結会計期間の期首より顧客に支払われる対価として、売上高から減額しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高が2百万円減少し、売上原価が0百万円増加し、販売費が0百万円、営業利益が1百万円、営業外費用が3百万円それぞれ減少し、経常利益が1百万円、税金等調整前四半期純利益が1百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が0百万円それぞれ増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は2百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより、時価のあるその他有価証券の評価基準について、期末月1か月間の市場価格等の平均に基づく時価法から、期末日における時価法に変更いたしました。

この結果、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の四半期連結貸借対照表において、投資有価証券が18百万円、繰延税金負債が5百万円、その他有価証券評価差額金が13百万円それぞれ増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Casting Field	Environment Field・環境 エンジニア リング	Environment Field・機能 材料	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,162	1,216	541	12,920	18	12,938	—	12,938
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	20	—	20	—	20	△20	—
計	11,162	1,236	541	12,940	18	12,959	△20	12,938
セグメント利益又は損失(△)	277	119	△19	377	3	380	△144	236

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△144百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社
管理部門にかかる費用が△164百万円、営業外収益が87百万円、営業外費用が△67百万円含まれてお
ります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Casting Field	Environment Field・環境 エンジニア リング	Environment Field・機能 材料	計				
売上高								
鋳物	13,902	—	—	13,902	—	13,902	—	13,902
環境エンジニアリング・環境	—	1,200	—	1,200	—	1,200	—	1,200
環境エンジニアリング・機械	—	665	—	665	—	665	—	665
機能材料	—	—	715	715	—	715	—	715
ソーラー	—	64	—	64	—	64	—	64
その他	116	—	—	116	18	134	—	134
顧客との契約から生じる収益	14,018	1,929	715	16,664	18	16,682	—	16,682
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	14,018	1,929	715	16,664	18	16,682	—	16,682
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	—	0	—	0	△0	—
計	14,018	1,930	715	16,664	18	16,682	△0	16,682
セグメント利益又は損失(△)	25	50	21	97	△0	97	△121	△24

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△121百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社
管理部門にかかる費用が△136百万円、営業外収益が93百万円、営業外費用が△78百万円含まれてお
ります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2021年4月1日に実施した組織変更に伴い、報告セグメントを従来の「鋳物関連事業」「環境
関連事業」の2区分から「Casting Field」「Environment Field・環境エンジニアリング」
「Environment Field・機能材料」の3区分に変更しております。

これにより、第1四半期連結会計期間の期首から、報告セグメントの区分の一部を変更し、これまで
「その他」に区分していた機械関連事業、ソーラー事業を「Environment Field・環境エンジニアリ
ング」に、機能材料事業を「Environment Field・機能材料」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、当該セグメント変更後の報告セグメン
トの区分に基づき作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

該当事項はありません。